

科目番号	科目名	配当年次	授業形態	単位	担当教員
K201	政治学入門 / 国際政治学Ⅱ	2年	講義	2	吉良貴之
授業概要 東アジア情勢、日米関係、中東政治など、各種の具体的な国際問題を取り上げ、その歴史的・政治的背景を理解する。また、その分析にあたって、政治学の基本的な知見が身につくように構成する。					
到達目標(学習の成果) <ul style="list-style-type: none"> ● 日々の政治ニュースについて、ただ感情的に反応するのではなく、一定の歴史的・政治的背景を踏まえたうえで理解できるようになること。それにあたっての基本的な政治学的知見を身に付けること。(DP2) ● 国際人として生きるうえでの基本的な知識を得るとともに、それが遠い外国の問題ではなく、自分たちの身近なまちづくりの問題にまで直結していることを理解し、異なる文化を持つ人々とともに暮らす(異文化共生)とはどういうことか、ということを中心に考えられるようになることが望ましい。(DP3) ● なお、「国際政治学Ⅰ」と合わせての履修をすすめるが、講義は異なった構成であるため、Ⅰを未履修でも差し支えない。 					
授業計画					
回	表題	学修内容			
1	国際政治とは何か	現在の国際社会にどのような問題が存在し、それを読み解くにはどういった視点が必要か、国際政治学の基本的な考え方を理解する。			
2	政治学の方法 (1)	まず、国内政治を念頭に置きながら、「政治」のメカニズムを理解するための基本的な方法としての政治学の考え方を理解する。			
3	政治学の方法 (2)	引き続き、「政治過程論」を中心に、国内のさまざまな利益団体が国際政治にどのように関わってくるか、基本的なモデルを理解する。			
4	政治学の方法 (3)	「主権国家」「ナショナリズム」などの概念の歴史をふまえ、それが現実の国際政治の場面に現れるときにどのような役割を果たすのか、功罪両面を理解する。			
5	戦後日本政治 (1)	終戦から「55年体制」の成立前後までの時期の日本政治のあり方について、特にアメリカとの関係を念頭に置きながら理解を深める。			
6	戦後日本政治 (2)	「55年体制」期の日本政治について、自民党の各派閥の特徴など、政党政治のあり方を中心に理解を深める。			
7	戦後日本政治 (3)	「55年体制」後の日本政治について、政権交代の意義、ポピュリズム的動向の是非などを中心に理解を深める。			
8	東アジア情勢 (1)	日本と韓国・北朝鮮との関係について、20世紀以降の歴史を踏まえ、どのような協力関係・利害関係があるのかを多角的に理解する。			
9	東アジア情勢 (3)	日本と中国の関係について、20世紀以降の歴史を踏まえ、どのような協力関係・利害関係があるのかを多角的に理解する。			
10	日米関係 (1)	日米安全保障条約の枠組みを中心に、日本とアメリカの関係について国際政治的に重要な論点を理解する。			
11	日米関係 (2)	日本とアジア、ヨーロッパその他の国々と関係するうえで、アメリカとの関係がどのように影響するのか、歴史を踏まえて理解する。			
12	中東情勢 (1)	近年の中東諸国と欧米の緊張関係を素材にし、その根本にある宗教、価値観や利害関係について理解する。			
13	中東情勢 (2)	「アラブの春」「イスラム国」など近年の中東諸国の動きについて、とくにアメリカとの関係を念頭に置き、国際政治史の大きな流れの中で理解する。			
14	EU	現代のヨーロッパ各国が直面している国際政治問題について、アメリカとの関係におけるEUの役割などを踏まえ、主権国家体制の今後を考える。			
15	まとめ: 異文化共生に向けて	これまでの講義内容を踏まえたうえで、身近な問題としての「異文化共生」のあり方について自分なりの考え方をまとめる。			

準備学修(授業外の自己学修)

教科書・参考書・配布資料をよく予習・復習しておくこと。講義ではリアルタイムの政治ニュースを多く扱うため、日頃から新聞などを意識的に読み、政治問題・国際問題に関心をもつことが望ましい。

成績評価の方法・基準(%表記)

適宜、講義の終わりに 5 分程度の時間をとって小テストを行う(講義で扱った基本的な知識を問うもの。30%)。学期末には試験またはレポートを実施し、グローバル社会のもとでの今後の日本政治、地方自治のあり方を述べられるかどうかを問う(70%)。

観点	S	A	B	C
授業で扱った政治学の内容を、多様な現代的問題との関連で理解できているかどうか。	十分に理解し、多様な問題へと応用できる。	十分に理解し、他の科目との関連を意識できる。	授業範囲全般について一定の理解ができている。	授業内容の最低限の理解ができている。
基本的な政治制度の理解のもとに、取り組むべき課題を明確にできるかどうか。	十分に理解し、独自の課題設定へと応用できる。	制度的な課題設定方法について十分に理解できる。	授業で扱った事例に即して課題設定を理解できる。	制度的な課題設定方法の最低限の理解ができている。
設定した課題について、具体的にどのような取り組みが可能かを政治過程に即して考えることができるかどうか。	十分に理解し、独自の解決法へと応用できる。	制度的な課題解決方法について十分に理解できる。	授業で扱った事例に即して課題解決を理解できる。	制度的な課題解決方法の最低限の理解ができている。

教科書

指定しない。講義では毎回、詳細な資料を配布し、それをもとに進める。

参考書等

村田晃嗣ほか『国際政治学をつかむ』(有斐閣、2009年、2310円)

五百旗頭真『戦後日本政治外交史(第三版補訂版)』(有斐閣、2160円)

ジョン・W・ダワー、ガバン・マコーマック『転換期の日本へ』(NHK出版[新書]、2014年、903円)

興梠一郎『中国 目覚めた民衆』(NHK出版[新書]、2013年、819円)

浅羽祐希『したたかな韓国』(NHK出版[新書]、2013年、777円)

池内恵『イスラーム国の衝撃』(文藝春秋社[文春新書]、2015年、842円)

ほか、講義中に適宜、紹介する。

履修上の注意・学修支援

疑問点がある場合には、授業中や終了後に積極的に質問してほしい(メールでの質問も受け付ける)。教員ホームページ(<http://jj57010.web.fc2.com>)には配布資料などを掲載するので、予習復習に役立ててもらいたい。